

当院では、下記の臨床研究を実施しています。研究概要は以下のとおりです。

【研究課題名】

クローン病の累積手術率の時代的変遷についての検討（多施設共同後向き観察研究）

* 後向き観察研究：診療記録などを利用して過去の情報を調査する研究

【目的】

若年発症が特徴であるクローン病は長期経過に伴い手術が必要になる場合があり、また術後も再手術が必要となることが多く、内科的治療も併せて長期的な治療が必要な疾患です。また近年、生物学的製剤の登場により、これまで以上に内科的治療による病勢のコントロールが期待されますが、内科的治療の手術治療に与える影響についてはまだ十分に検討されていません。今回、本邦でのクローン病に対する内科的治療と手術成績やその関連を明らかにするため、厚生労働省難治性疾患克服研究、難治性炎症性腸管障害に関する調査研究のプロジェクトとして多施設共同研究を行います。

【対象】

1960年1月～2016年7月の間に当院でクローン病に対する手術が施行された方

【方法】

診療記録より当院研究担当医師が調査用紙に記入し、研究代表者へ郵送します。

送付された情報を研究代表機関で解析し、厚生労働省のホームページに掲載している難病克服事業における公開や論文として公表されます。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は匿名化するため、氏名などの特定の個人を識別できるような情報が外部に漏れることはありません。

【利用する試料・情報】

診療記録（性別、生年、発症日、診断日、手術歴、手術後の免疫調整剤の使用の有無、手術後の栄養療法の有無、手術後の抗TNF- α 抗体製剤使用の有無、術後の経過など）

【研究期間】

倫理委員会の承認が得られてから2021年7月31日まで

【研究組織】

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班
ホームページ <http://ibd-japan.org/>

研究参加施設

東京大学大学院医学系研究科 臓器病態外科学講座・腫瘍外科学、兵庫医科大学 炎症性腸疾患学講座

東北大学大学院医工学研究科 消化管再建医工学分野、横浜市立市民病院 炎症性腸疾患センター

福岡大学筑紫病院 外科、三重大学大学院医学系研究科 生命医科学専攻臨床医学系講座

奈良県立医科大学 中央内視鏡・超音波部、大阪大学大学院 医学系研究科臨床腫瘍免疫学寄附講座

東京女子医科大学 第二外科、横浜市立大学附属市民総合医療センター 炎症性腸疾患センター

【研究代表者】

東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学講座・腫瘍外科学 渡邊 聡明

【当院の研究責任者】

炎症性腸疾患センター 杉田 昭

【連絡先】

横浜市立市民病院 〒240-8555 横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56

電話 045-331-1961（病院代表） 炎症性腸疾患センター 杉田 昭

この研究の対象となる方またはその代理の方で本研究への参加を希望されない方は、上記の連絡先へお申し出ください。その場合でも、対象となる方に不利益が生じることはありません。

また、この研究の対象となる方またはその代理の方は、本研究の詳細（研究計画書及び研究方法に関する資料）を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手・閲覧することができますので、ご希望の方はお申し出ください。